

第10号様式(第7項関係)

政務活動出張報告書

令和4年11月30日

会派名 市民リベラル
代表者 伊藤 一之 様

出張者 伊藤 一之

次のとおり、政務活動（調査研究）のため出張したので、その概要を報告します。

- 1 出張先 ①兵庫県 美方郡 香美町
 ②岡山県 英田郡 西粟倉村
 ③兵庫県 姫路市
- 2 出張日時 令和4年11月14日～令和4年11月16日
- 3 政務活動事項 ①香美町学校間スーパー連携チャレンジプランについて
 ②小水力発電事業について
 ③文化財を活かした観光施策について
- 4 政務活動結果 別紙
- 5 費用 65,450円
 (うち4,300円は視察負担金及び資料代)

政務活動報告書

2022年11月14日(月)～11月16日(水)

● 1 日目

- (1)日時 2022年11月14日(月)15:00～
(2)視察先 兵庫県美作郡香美町
(3)視察先項目 香美町学校間スーパーチャレンジプランについて
(4)所感

意見交換は、議会事務局の司会で開始された。冒頭に西谷香美町議会議長の歓迎の挨拶を受け、浦田議員から代表して唐津の教育環境や現状なども交えて挨拶がされた。

その後、司会者から香美町の特徴や行政の現状等が紹介され、香美町教育委員会総務課中村氏より「香美町学校間スーパーチャレンジプラン」について説明を受けた。

「平成25年度からこのプランに取り組んできた。香美町には小学校が10校と中学校が3校ある。平成17年度に1,374人いた小学生が令和8年度には588人になると予想がされている。その中で2校は全学年が複式学級となっている。香美町では小規模校ならではの地域の特色を生かした教育を進めてきた。しかし、小規模校では多人数の集団行動や多様な行動ができない、友達の限定化、積極性や行動力などに不安があるなどの保護者からの不安を持つ意見もあり、小規模校の長所を生かして多人数の授業にするにはどうしたらいいか議論を重ねてこのプランに臨んだ。

10校を6校と4校の2つのグループに編成し、グループ間で合同授業、合同学習や修学旅行、林間学習など工夫をしながら学習を行っている。「わくわく授業」「わかった授業」と2区分し、「わくわく授業」業では、合同学習、集団で学習し、複数の教師が細やかに指導することができ学力アップ繋がっている。「わかった授業」では、グループ別学習、ハーフサイズによる授業を少人数で行い、学び方の構築ができてい

る。」と言うことであった。
移動のバスなどは教育委員会が運転手など務めて、運営をしていると言う事でもあった。これからの少子化の中で唐津市も取り入れる要素の多い進んだ事業だと感じた。

● 2 日目

- (1)日時 2022年11月15日(火)14:00～
(2)視察先 岡山県英田郡西粟倉村
(3)視察項目 小水力発電事業について
(4)所感

西粟倉村役場・会議室で産業観光課・白簾課長補佐から説明を受けた。なぜか雑談から入った。唐津のこともよく研究をしていたが、仕事への情熱、村への愛情が大きいのに、まず驚いた。

表題は、大きく「西粟倉村 脱炭素の取り組み」として説明がされた。西粟倉村は、2004年に住民アンケートに基づいて「合併協議会」を離脱し、自主自立の道を選んだ。そして同年総務省の「地域再生マネジャー事業」で地域活性化への動きを大きくしてということであった。

2009年に「百年の森林事業」(百年先の西粟倉村の森林の姿)をスタートさせた。取り組むきっかけは、①財源の不足、林業の不振で、山林が荒れる。②平成の大合併の拒否で「自立の道を選んだこと。③公的財源を投入する「百年の森構想」をたちあげたことである。その中で、小水力発電やバイオ発電などの脱炭素の取り組みが発生をしてきた。そうすることによって、ベンチャー企業の設立やIターンの増加にもつながったということであった。

「百年の森構想」で、個々の私有林を一括して自治体が管理をするという発想には新鮮さと大胆さが感じられた。そうすることによって、多くのメリットが発生をしている(山林の整備、収入増、ベンチャー企業の設立、Iターン・Uターンの増加、経済の活性化など)。住民の理解や承諾を取る困難さは私も実感するが、彼らの行動力、実行力には感心をした。

合併しなかった事を有利に捉え、村の90%以上を占める山林を活かし、人を、まちを活性化する取り組みに感動した。真似るのではなく、大胆にその自治体の特徴を考えながら、大胆に実行していく大切さを学んだ。現地なども17時過ぎまで案内を受け、地域づくりの情熱を感じた。

● 3 日目

- (1)日時 2022年11月16日(水)9:30～
(2)視察先 兵庫県姫路市
(3)視察項目 文化財を活かした文化財施策について
(4)所感

姫路城の中の「迎賓館」にて9時30分から研修を開始した。議会事務局の進行で、姫路市観光スポーツ局・観光文化部・観光課・大西課長、西本係長より説明を受けた。

まず、姫路市の観光に関する概況について説明があり、姫路市への総入込客数は、コロナ禍前は1千万人を超えていたが、現在は3、4百万人となっているということであった。最近はインバウンドも増加し、入込客も回復基調にあるとのことであった。全国の傾向であろうと思う。

続いて姫路市の「観光戦略プラン」について説明があった。今年度から2026年度までの5年間を計画期間とし、「観光を通して、にぎわいと感動にあふれるまち 姫路」をキャッチフレーズに①観光コンテンツの磨き上げによる魅力向上②韓国客のニーズを踏まえた受け入れ環境の整備③効果的なプロモーションによる誘客推進④国際会議観光都市・MICE都市の推進⑤観光を活かした産業振興・地域づくりの推進の5つの戦略のもと進めていくということであった。

各々の戦略ごとに具体的な戦略を説明していただいた。大きなものは、地域DMO「(公社)姫路観光コンベンションビューロー」の設立と考える。実動的に動く媒体が必要なのは明白だと考える。そして、計画策定やインフラ整備などを自治体で支えていくという方式は必要不可欠でないかと考える。

姫路の主な観光文化財を3点紹介していただいた。①姫路城②書写山・圓教寺③姫路市立美術館の主なイベントや課題なども多く挙げられた。感心したのは一つの観光媒体から多くの目線で多くの見どころを作り上げている。視点の素晴らしさもあると思うが実行力も大きいと考える。最後に「中心地市街地活性化基本計画(第3期)」を基本に、①街中への回遊促進の取り組み②「食文化」の発信③デジタルに関する取り組みについて説明があった。姫路駅北側の整備には目を見張った。交流広場もそうだが、人の流れや車の流れが自然にでき、フラットで多くを眺望できると、安心感のある眺望であること、唐津にも取り入れることはできると考える。多くのインバウンドを含めて観光客が戻ってきている実感も感じた。